

1 研究題目

文学教材を通して対話できる児童・生徒の育成

2 はじめに

前年度まで国語教育研究会で行っていた「説明文」の研究が一区切りとなったため、今年度から「文学作品」を中心に据えた研究を始めている。国語の授業において、児童・生徒は「教材」「他者」「自分自身」と「対話」しながら文学作品を読み進めていく。「教材との対話」では、登場人物や場面の様子を読み描き、「他者との対話」では、自分の考えと比べて読みを広げたり深めたりする。そして、「自分自身との対話」で自分の考えを確かなものにしていく。「対話」が児童・生徒にもたらすものは非常に大きいと考えられる。今年度は「対話」を大事にしながら、教師それぞれの色を出した授業実践に挑戦することで、今後の研究の土台を築くことを目標に、研究主題を設定した。

3 研究経過

- (1) 会を定期的に設け、学年ごとに分かれて授業の教材研究や実践報告をした。
- (2) 学年ごとに1・2学期の取り組みを中間発表で報告した。
- (3) 報告会を行い、次年度のテーマについて話し合った。

4 研究の概要

5月	各部に分かれて情報交換、今後の計画
6月	各部に分かれて教材研究・実践報告
9月	各部に分かれて教材研究・実践報告
10月	各部に分かれて教材研究・実践報告、中間発表の準備
11月	中間発表（各部ごとの実践と成果について）

月ごとの研究テーマは表の通りである。各学年に分かれてテーマに沿った教材研究を行い、それぞれが創意工夫を凝らした授業実践の報告を行った。会では、互いの実践資料を持ち寄り、熱心に話し合う様子が多く見られた。そこで、話し合った内容をグループごとに用紙にまとめてもらい、それらを集約したものを次の研究会で配付することで、すべての先生が他学年の行った教材研究や実践報告を知ることができた。11月の中間発表では、それぞれの学年の実践報告を聴き合い、質疑応答や話し合いを行った。学年ごとにレジュメが用意されていたため、興味をもって他学年の実践に耳を傾けていた。今後の会では、11月以降の授業実践成果を共有し、それを元にこれからの文学教材の授業を練り、さらに研究を進めていく予定である。

1, 小学校1・2年

「おおきなかぶ」～登場人物になりきって音読する～

挿絵でイメージし、おじいさんになりきることによって音読に変化が生まれた。音読や動作化で読みを深めることにつなげた。言葉だけでは読み方を伝えることは難しいので、体験を交えることで深まりにつなげた。

「スイミー」

聴く姿勢などの環境を作り、言葉の1つ1つを拾って意味の確認をした。ワークシートをうまく活用することで、発言が苦手な児童に自信がつき、考えを把握できた。文学は正解・不正解ではないため、考えを否定しないようにした。想像で話すと物語から離れてしまう。

2, 小学校3・4年

「ちいちゃんのかげおくり」～場面をくらべながら感じたことをまとめる～

タブレットやグループ活動は自信につながり交流が深まった。活動前に具体的な指示をすると活動が盛んになった。一部の意見に偏ったら、意見交流できるようにペアやグループを適宜取り入れた。

「ごんぎつね」～ごんになる～

振り返りの充実のため、「ごんの日記」を書かせたり仲間の考えを共有させたりした。校外学習で記念館に足を運び、ごんぎつねの世界に入らせた。人生経験の足りない児童が作品の世界観に入り込むには、どうすべきか。

3, 小学校5・6年

「たずねびと」

資料の効果的な提示により、主人公と同じタイミングで情報が伝わった。既習の内容が書かれた拡大紙を使い、場面ごとのつながりを意識して読み深めることができた。書き込み量が読みの深さであり、差が出るので、話し合いから意見をもたせるようにした。場面を区切るかどうか迷うので、ポイントで軽重をつける。

「帰り道」

音読からグループを取り入れることで、スムーズに深めたいところの話をしていた。音読を焦点化することで、読み描くものが具体的になり、新たな考えへとつながった。ワークシートは考えが固執することもある。児童の実態によって登場人物の視点の変化をどう指揮するかが大切。

4, 中学校1・2・3年

「大人になれなかった弟たちに…」

実際に棺を囲んだりミルクを飲んだりするなど、体験や経験を踏まえることで教材と重ねることができた。本文に何度も戻ること、細かいところまで注目することができた。気になることなど、生徒から意見が出ないと停滞してしまった。繰り返し読んでも、キーワードや気づきが還されない。

「盆土産」

生徒の疑問を出発点として内容を読み進めていくことで、主体的な活動が増えた。登場人物（父と息子）の日記を書かせることで、興味をもって学習する生徒が増えた。時代背景をつかむことに手間取ったり、知らない単語に時間をとられたりと、時間が足りなかった。

「故郷」～作品の主題をつかむ～

これまでは、通読してから設定を押さえ、場面ごとの読み取りをして主題に迫っていく流れだった。今回は、主題をつかむために何を読み取り、何を理解すればよいかを生徒に考えさせた。時間はかかるが、3年間の集大成として、過去の学習を思い出しながら主体的に取り組んでいた。時間がかかること、ネットで調べると出てくるのが改善点である。

5, 国際

「文章を書くこと」～日記を書く～

テーマを決めて日記を書かせることで、季節や学校行事への理解が深まった。時間を表す言葉（昨日、今週、曜日など）の理解にもつながった。主語と述語の学習でも今回の経験が生きた。仲間の日記と交流することで、新しい表現を身につけることができた。

5 今後の課題

学年別で教材研究や実践報告を行うことで発達段階に応じた取り組みがわかり、研究が進むにつれて土台作りはできたように感じる。次年度以降、研究主題に具体的な視点を加えるためにも、発達段階に応じた指導内容や方法を追求していく。そのために、小学校1年生から中学校3年生までの教師が集まって研究を行える本研究会の機会は非常に貴重である。この機会を生かしながら、義務教育9年間を通した一貫性のある文学教材の指導を目指して、今後も教材研究や実践報告を重ねていきたい。